

日本理学療法教育学会 選挙公報

役員候補者選挙について

役員候補者選挙の選挙公報を掲載します。
立候補者が定数内のため、評議員による投票は行いません。

備考：この選挙公報は、候補者から登録された内容をそのまま掲載したものです。

理事定数 10名以上 15名以内

立候補者数 13名

一般社団法人 日本理学療法教育学会
選挙管理委員会



氏名 三宅 わか子

年齢 60

所属 星城大学リハビリテーション学部

立候補の趣旨

1963年日本初の理学療法士養成施設が開設され、1965年理学療法士及び作業療法士法公布専門学校での養成教育が推進されて以降、1979年短期大学教育の開始、1992年大学教育の開始と卒前教育の体制は拡大しました。また卒後教育では1997年生涯学習システム・専門理学療法士制度が導入され、2021年学術機能の一部を一般社団法人日本理学療法学会連合および各法人学会・研究会に移管し、教育と学術活動に力を入れてきました。近年では2018年に理学療法士学校養成施設指定規則が改正され、社会情勢にあった理学療法士の育成となる卒前教育が求められています。さらに2022年度より新生涯学習制度が始まり、多様化するニーズに応えうる卒後教育に力を入れています。このように卒前教育から卒後教育のシームレスな教育体制の確立には、真に理学療法教育について教育とは何か？を常に模索する継続した活動が重要となり、適した情報収集と発信、教育に関する学術事業の展開、教育専門の機関誌での研究・実績報告など幅広い役割があります。理学療法士の職能と学術をつなぎ、国民に求められる人材育成の強化が重要であり、理学療法教育への関わりは理学療法士の職務の一環です。このたび私は、理学療法教育の更なる発展に向けた活動を支援させていただきたく、(一社)日本理学療法士学会理事に立候補いたします。

役員歴

平成17年～平成25年度 教育管理理学療法研究部会 運営幹事
平成25年～令和2年度 日本理学療法教育学会 運営幹事
令和元年度 第8回日本理学療法教育学会学術大会 大会長
令和3年～現在 (一社)日本理学療法教育学会 副理事長
平成25年～26年度 NPO法人 愛知県理学療法学会 理事
平成27年～30年度 (公社)愛知県理学療法士会 理事
令和元年～4年度 (公社)愛知県理学療法士会 副代表理事
令和5年度～現在 (公社)愛知県理学療法士会 代表理事



氏名 日高 正巳

年齢 57

所属 兵庫医科大学リハビリテーション学部

立候補の趣旨

一般社団法人日本理学療法教育学会の理事長として2期4年を務めさせていただきました。

この間、学術大会の対面開催、機関誌の発刊も順調に進み、「理学療法教育ガイドライン」「理学療法教育コアカリキュラム」を学会版として公開に向けて取り組んでいるところです。

理学療法教育が抱える課題として、適切な入学者選抜の実施に始まり、学内教育、臨床実習教育、国家試験、卒後教育と多岐にわたります。また、「4年制大学化推進」「指定規則の見直し」と、今後、変化はさらに求められていくものと考えています。

よりよい理学療法を提供していくためにも、理学療法教育の在り方を考えていくことは非常に重要になってきます。引き続き理学療法教育の発展のために取り組ませていただければと思います、立候補させていただくことにしました。よろしくお願いいたします。

役員歴

2014年6月～2016年6月：日本理学療法教育学会運営幹事
2016年6月～2017年6月：日本理学療法教育学会常任運営幹事
2017年4月～2021年6月：日本理学療法士協会コアカリキュラム委員会（委員長）
2017年6月～2021年6月：日本理学療法教育学会副代表運営幹事
2021年4月～：一般社団法人日本理学療法教育学会理事長
2021年6月～：一般社団法人日本理学療法学会連合理事



氏名 池田 耕二

年齢 54

所属 奈良学園大学

立候補の趣旨

このたび、日本理学療法教育学会理事に立候補させていただきました奈良学園大学の池田耕二です。

私はこれまで約20年間臨床の現場に身を置き、その後12年間、大学において養成教育および大学院教育に携わってまいりました。

臨床と教育の双方に関わる中で、理学療法士の成長は卒前教育のみで完結するものではなく、臨床現場での経験、生涯にわたる学習、そして専門職としての継続的発達を含めた連続的な営みであることを実感してまいりました。

これまで、臨床における人材育成や専門職発達の在り方について、教育実践と研究の両面から検討を重ねてまいりました。

また、奈良県での理事活動や日本理学療法士協会の諸活動を通じて、組織運営や職能団体の役割についても学ばせていただきました。学ばせていただいた経験を、あらためて理学療法教育の発展に還元したいという思いを強く抱いております。

同時に、本学会は学術的活動の活性化を通じて教育の質を高め、その成果をもとに制度設計や教育の在り方に関する提言を行う役割を担う存在であると考えております。

学校教育、臨床現場での育成、生涯教育をつなぐ視点から、理学療法士の専門性をいかに育み支えていくかについて、会員の皆様とともに丁寧に議論を重ね、学術に裏付けられた実践的提言を積み重ねていきたいと考えております。

微力ではございますが、本学会の発展に少しでも貢献できるよう尽力いたします。何卒よろしく願い申し上げます。

役員歴

2021-2024年	日本理学療法教育学会	選挙管理委員
2021-2024年	日本理学療法教育学会	コアカリキュラム委員
2022-2024年	日本理学療法士協会	指定規則等検討部会
2023-2025年	日本理学療法教育学会	選挙管理委員長



氏名 芳野 純

年齢 51

所属 帝京平成大学健康メディカル学部

立候補の趣旨

2021年より日本理学療法教育学会の理事を拝命し、これまで会員管理や学術事業ならびに学術大会の企画・運営を中心に活動してまいりました。とりわけ今期は、学術大会の充実と学術活動の活性化を通して、本学会が担うべき「理学療法教育の質向上」に資する取り組みに力を注いでまいりました。近年、理学療法教育の発展は著しく、教育理論を基盤とした実践や研究が着実に広がっていると実感しております。多様な理論的枠組みを踏まえた教育実践が展開され、理学療法教育は量的拡大のみならず質的深化の段階に入っていると考えております。理学療法教育の領域は、大きく分けると養成校教育、臨床実習教育、卒後教育の三領域に整理できます。しかし実際には、これらは分断されたものではなく、本来は連続性と一貫性をもって構築されるべき教育のプロセスであります。各領域の実践者・研究者がそれぞれの立場から知見を持ち寄り、相互に学び合い、議論を深めることによってこそ、学習者の成長を長期的視点で支えることができ、結果として社会に貢献できる理学療法士の育成につながると考えております。日本理学療法教育学会および学術大会の重要な役割は、そのような多様な知識・経験・価値観・想いといった叡智を集約し、建設的な対話を通して次の実践へとつなげる場を創出することにあると考えております。来期も学術事業および学術大会の充実に尽力し、本学会のさらなる発展に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

2021年：日本理学療法教育学会 理事（現在に至る）
2022年：第12回日本理学療法教育学会学術大会 教育講演2 講師
2023年：学術事業委員（現在に至る）
第13回日本理学療法教育学会学術大会 財務局長
2024年：学術大会支援委員 担当理事（現在に至る）
2026年：第14回日本理学療法教育学会学術大会 大会長



氏名 奥野 将太

年齢 38

所属 飯塚病院

立候補の趣旨

日本理学療法教育学会の皆様、この度、理事へ立候補させていただく飯塚病院の奥野将太と申します。

私は臨床現場で理学療法士として従事する傍ら、「専門理学療法士（教育）」を取得するなど教育分野の研鑽に努めてまいりました。2022年に熊本大学大学院社会文化科学教育部「教授システム学専攻」を修了し、本年4月より同大学院同専攻の博士後期課程へ進学してインストラクショナルデザインの研究を深める予定です。また、2022年にデジタルラーニング・コンソーシアム認定「eLPラーニングデザイナー」を取得後、実践と研究を重ね、2025年に上位資格「eLPシニアラーニングデザイナー」を取得いたしました。

当学会においては2023年より学術事業委員（旧・学術大会委員）、2024年からは理事および広報委員として運営に携わってまいりました。引き続き理事として重きを置きたい目標は二つです。一つ目は、最新テクノロジーとインストラクショナルデザインを融合させた教育手法の普及です。生成AI等を活用した研究実績も生かし、教育の効果と効率の最大化に寄与します。二つ目は、臨床現場と養成校の架け橋となることです。臨床の視点とこれまでの理事経験を生かし、現場と教育機関がシームレスに連携できる学会運営を推進します。

理学療法教育向上への熱意を胸に、臨床・教育・研究の視点を融合して当学会の発展に全力を尽くす所存です。皆様のご支持を心からお願い申し上げます。

役員歴

日本理学療法教育学会 理事（2024年～）・広報委員（2024年～）・学術事業委員（2023年～）

日本栄養・嚥下理学療法学会 評議員（2021年～2024年）

福岡県理学療法士会 学術査読委員（2025年～） 社会局 公益事業推進本部 部長（2017年～2019年）



氏名 大塚 圭

年齢 53

所属 藤田医科大学保健衛生学部

立候補の趣旨

この度、日本理学療法教育学会 理事選挙に立候補いたしました、藤田医科大学の大塚圭です。2022年度より2期4年、広報および学術事業を担当してまいりました。広報では、2022年に本会公式XとFacebookを開設し、情報発信の土台を整え、運用体制を次期へ円滑に継承しました。学術（学術事業）では、1期目に年1回の学術セミナーを実施し、2期目には「学術事業委員会」として体制を再編、開催を年2回へ拡充しました。2025年度にはサテライトシンポジウム「臨床実習前後の評価の再考」を名古屋でハイブリッド、第14回学術大会ではコンセンサスシンポジウム「日本理学療法教育学会が提言する臨床実習評価の新基軸」を企画・開催しました。これらの取り組みを通じて、臨床実習前後の評価や診療参加型臨床実習の論点を、会員の皆様と共有してきました。再選の機会を頂けたら、議論の継続と成果の社会実装に向け、特別委員会等の設置も含めた体制整備を進めます。「後進の育成は専門家としての責務であり、専門性の発展の根底となるもの」という信念のもと、会員の皆様に資する学会運営に誠実に尽力いたします。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

役員歴

<主要な現役役員歴のみ掲載>

2022	日本理学療法教育学会	機関誌編集委員
2022	日本理学療法教育学会	理事
2023	愛知県理学療法学会	副理事長
2023	日本理学療法士協会	指定規則等検討部会 部員
2024	日本理学療法士協会	代議員
2025	日本理学療法士協会	4年制大学化推進部会 部長



氏名 薄 直宏

年齢 53

所属 東京女子医科大学附属八千代医療センター

立候補の趣旨

前任期に引き続き、日本理学療法教育学会理事に立候補いたします。薄（うすき）直宏と申します。

これまで本学会の運営幹事として学会創設期より関わらせていただき、第5回日本理学療法教育学会学術集会および第9回日本理学療法教育学会学術大会の大会長を務めさせていただきました。また前任期では、機関誌「理学療法教育」の発刊活動を中心に学会運営に携わってまいりました。これらの活動は、多くの会員の皆様のご協力によって支えられてきたものであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私はこれまで臨床現場と教育現場の双方に関わる立場として、理学療法教育に携わってまいりました。理学療法教育は養成校での教育のみならず、臨床の現場における学生教育や人材育成と深く結びついており、その実践や課題を共有し、発展させていくことが本学会の重要な役割の一つであると感じています。

次世代の理学療法士の成長を支える場として本学会がさらに発展していくためには、教育学会としてどこに向かい、何を社会に示していくのかを改めて整理していく時期に来ていると考えています。

その中で、臨床教育の実践や課題を可視化し、養成校教育と臨床教育をつなぐ議論の場を広げていくことも、本学会の重要な役割であると考えております。

微力ではございますが、会員の皆様とともに学び合いながら、日本理学療法教育学会のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

2012年 千葉県理学療法士会理事（現在に至る2025年から会長）
2021年 日本理学療法教育学会理事（現在に至る）
2015年5月 第5回日本理学療法教育学会学術集会 学術集会長
2020年11月 第9回日本理学療法教育学会学術大会 大会長
2014年 帝京科学大学非常勤講師（現在に至る）
2020年 東都大学非常勤講師（現在に至る）
2015年2月 東京大学インタラクティブ・ティーチング講座履修



氏名 門馬 博

年齢 45

所属 杏林大学

立候補の趣旨

私はこれまで大学での卒前教育を中心に、時代に即した教育技法の実践を心がけて参りました。大学全入時代の到来や養成校の増加、さらには近年の生成AIの台頭など、教育現場を取り巻く環境はかつてない速さで変化しています。こうした技術革新を脅威ではなく、社会の変化に教育の質を飛躍させる好機と捉え、新たな学びのあり方を構築していくことは本学会の重要な役割であると考えています。

理学療法士には、正解のない変化に富む時代を主体的に生き抜く力が求められます。そのためには、単なる知識の伝達に留まらず、自ら問いを立て、テクノロジーを活用しながら行動できる人材を育成しなければなりません。特に、学生時代に培った探究心を臨床現場へ繋げる、卒前教育から卒後教育へのスムーズなトランジションの実現は、理学療法士の生涯にわたる質の向上において極めて重要な鍵となります。

教育の質の向上は、理学療法の未来そのものです。職域の拡大や社会ニーズの多様化が進む中、卒前・卒後の垣根を越えて、自ら考え、学び、行動し続ける理学療法士を養成する教育体制の確立、そして客観的に教育の質を検証する学術活動につなげて参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。

役員歴

- | | | |
|-------|---------------|-----------------|
| 2021- | 日本理学療法教育学会 | 理事（財務担当、副理事長） |
| 2021- | 日本理学療法士協会 | グローバルプロジェクト運営部会 |
| | アジア人材育成プロジェクト | リーダー |
| 2025- | 日本理学療法士協会 | 4年制大学化推進部会 部会員 |
| 2017- | 東京都理学療法士協会 | 公開講座準備委員会 委員 |



氏名 二宮 省悟

年齢 56

所属 東京国際大学

立候補の趣旨

現在、私は本学会の理事として活動しています。理学療法士養成校における教育は、日本で理学療法教育が1963年（昭和38年）に開始されて以来、60年以上の歴史を重ねています。その間に何度も大綱化が行われ、それに伴い学校教育も変遷してきました。近年では、2018年（平成30年）の指定規則改正に伴い卒前教育として診療参加型臨床実習が導入され、理学療法士養成校および臨床現場ではその対応に追われています。「これからの理学療法教育に求められるものは何か」について、日々考えさせられる今日この頃です。また、卒前教育だけでなく卒後教育も重要です。私は過去に福岡県理学療法士会教育・管理系理学療法研究部会および熊本県理学療法士会臨床実習教育班で活動し、令和3年度からは日本理学療法教育学会の機関誌編集委員長を務め、卒前教育に加えて卒後教育の課題にも触れる機会が増えました。さらにその経験を踏まえ、令和4年に日本理学療法教育学会の理事に就任しました。全国各地で発生している様々な「理学療法教育」の状況について学びの毎日が続き、これからの課題や問題の多さに気付かされています。加えて令和5年は埼玉県理学療法士会の臨床実習教育部の部長として、臨床現場の声や臨床実習指導者講習会の世話人の声、養成校教員の声など、様々な立場の「声」を拝聴する機会を得ました。その「声」を大事にするとともに、教員歴28年の経験を生かし本学会の理念に基づき、来期も日本理学療法教育学会の理事として、未来に向けて卒前・卒後の「理学療法教育」を支え、発展に貢献したいと考えています。微力な私ですが、どうぞご支援の程よろしくお願い申し上げます。

役員歴

平成14年4月～平成16年3月 福岡県理学療法士会専門領域推進部
教育・管理系理学療法研究部会 部員
平成24年9月～令和3年3月 熊本県理学療法士会 臨床実習教育班 班員
令和3年7月～令和4年5月 日本理学療法教育学会 評議員
令和3年10月～現在 日本理学療法教育学会 機関誌 編集委員長
令和4年6月～現在 日本理学療法教育学会 理事
令和4年10月～現在 埼玉県理学療法士会 臨床実習教育部 部長



氏名 高木 亮輔

年齢 41

所属 J A 静岡厚生連 中伊豆温泉病院
通所リハビリテーション リハッ
ピー

立候補の趣旨

私は病院勤務を経て、現在は通所リハに勤務しております。これまで、職場の新人や中堅の教育のみならず、実習生や実習指導者の教育にも携わって参りました。現在は、指定規則の改正で新設されました、地域理学療法実習にも責任者として関わらせていただいております。

臨床現場では、指定規則の改正によって、臨床実習の在り方が大きく変化したと言われましたが、システムの構築や診療参加型臨床実習の方法論にばかり注目が集まり、改正の効果検証は十分とは言えません。また、日本理学療法士協会の生涯学習システムも一新され、登録理学療法士制度が創設されましたが、ジェネラリストの教育についてどの程度浸透され、どのような教育効果が得られているのかは不透明な状況です。

理学療法士を取り巻く教育環境も大きく変化を遂げている昨今ですが、急務の課題の一つとしてこれらの効果検証があると考えております。

日本理学療法教育学会は法人化し、会員の皆さまのご支援を受け、独立して学会の開催や学術誌の発刊が可能な状態に成長しました。私は、課題である効果検証を信頼性高く展開するためにも、学会やセミナーを通して皆さまの理学療法教育に対する率直な意見交換を設ける他、本学会が中心となって調査事業を展開する必要があると考えております。理学療法教育における学術活動の発展は、質の高い理学療法士の輩出に必ず役立つものだと信じております。

日本理学療法教育学会の会員皆さまのご協力をいただきながら、より良い卒前、卒後教育が展開されていくよう、学会の運営に努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

役員歴

2021年～現在 日本理学療法教育学会 理事
2026年～第15回日本理学療法学会学術大会 大会長



氏名 内山 靖

年齢 62

所属 名古屋大学大学院医学系研究科

立候補の趣旨

私は、13年間の大学病院等での専従理学療法士の臨床経験ののち、教育職に転じて30年近くが経とうとしています。この度、本学会の理事に初めて立候補させていただきます。

私は、現存する学校の形態や修業年限を超えて、すべての教員・指導者と学生が夢と誇りをもって学び集う場になることが本学会の本質的な存在意義だと思っています。本学会は、全国で思いを同じくする数百人の参加者が集い、教育手法やカリキュラムとともに、病院や施設で働かれている臨床実習教育者も数多く参加される貴重な場になっています。これまで皆様方が築いてこられた学会のさらなる発展と新たな挑戦にわずかでも貢献できればと考えております。

18歳人口の減少が本格化する、いわゆる2026年問題として入学者の減少が本格化する一方で、医療・福祉職を含むエッセンシャルワーカーの不足は社会課題となっています。このような中で、医療と介護をつなぐ医療職である理学療法士の養成は極めて重要で、急性期医療での多様な役割とともに地域活性化の要となる職業であると思っています。今こそ、科学的な思考によるエビデンスの涵養とともに、職業教育の充実が真に求められていると思います。いわゆる態度（情意）は、教育・心理学的な研究で可視化が広がり新たな取り組みと成果も報告されています。臨床実習教育においては、医学・看護学教育とは異なる私たちの職業特性を踏まえた理念と形態に自信を持つ必要もあります。

私は、2002年に群馬大学で理学療法版の客観的臨床技能試験（OSCE）を開発し、日本理学療法士協会や文部科学省・厚生労働省において教育体系や試験、教育機関のあり方にかかわる委員や日本医学教育学会の代議員を務めています。これらの経験を生かしながら、これまでの理事・評議員の先生方の学会の組織運営や活動方針を尊重し、皆様とともに本会の発展のために少しでもお役に立てるように取り組んで参ります。

役員歴

本学会の評議員です。



氏名 鬼塚 勝哉

年齢 37

所属 東都大学

立候補の趣旨

この度、日本理学療法教育学会理事に立候補いたしました、東都大学の鬼塚勝哉です。

私は現在、養成校教員として卒前教育に携わるとともに、臨床現場でも勤務し、教育と臨床の双方の視点から理学療法士の育成に関わっています。その中で、養成校教育と臨床現場が求める理学療法士像との間にあるギャップを実感してきました。学生は養成校教育で多くの知識や技術を学びますが、臨床現場ではそれらを統合し、患者の状況に応じて柔軟に活用する力が求められます。この教育と臨床をつなぐ視点こそ、これからの理学療法教育において重要であると考えています。

近年、理学療法士を志す学生の背景は多様化しており、社会構造の変化や医療の高度化に伴って、理学療法士に求められる資質・能力も大きく変化しています。そのような状況においては、卒前教育の充実だけでなく、卒後教育への接続をどのように構築していくかが重要な課題であると考えています。現在、指定規則や理学療法教育モデル・コア・カリキュラムの改訂が進み、コンピテンシーに基づく教育の枠組みが示されつつあります。理事に選出いただいた際には、これらの理念を現場レベルでどのように実装し、学生が臨床で求められる能力を段階的に身につけられる教育へとつなげていくかについて、教育機関と臨床現場の双方の視点を踏まえながら、皆様とともに検討し、実践していきたいと考えています。

また、若手の立場からこそ見える課題や可能性を大切にしながら、次世代の理学療法士の育成に貢献するとともに、自身も学び続け、本学会の活動を通して理学療法教育のさらなる発展に寄与していきたいと考えています。

初めての立候補ではありますが、理学療法の未来を担う人材育成に情熱をもって取り組んでまいります。何卒よろしくご厚意申し上げます。

役員歴

第9回日本理学療法教育学会学術大会 準備委員長：R2年11月



氏名 加藤 研太郎

年齢 47

所属 大阪芸術大学短期大学部 大阪学舎

立候補の趣旨

理学療法士養成教育においても管理学の導入などを契機に、以前より関心は高まりつつありますが、教育の質保証や学習成果の最大化という観点から見れば、なお発展の余地は大きいと感じております。昨今、理学療法士の質の低下が指摘される中、養成段階から卒後教育までを含め、教育の在り方を改めて問い直し、より実効性の高い教育へとつなげていく必要があります。

現在、コアカリキュラム委員会の委員長を拝命しており、養成課程におけるモデル・コア・カリキュラムの策定を進めております。医学部をはじめとして他職種との整合性を踏まえつつ、理学療法士に真に必要なとされる専門性の中核を明確化することが求められています。理学療法教育の独自性と社会的要請の双方を見据えながら、将来を担う人材育成の基盤づくりに貢献してまいりたいと考えております。

理学療法教育を取り巻く環境が大きく変化する今こそ、教育の本質に立ち返り、現場と制度の両面から持続的な改善を進めていくことが重要です。理事として、会員の皆様と知見を共有しながら、より質の高い理学療法教育の実現と、その発展に資する学会運営に尽力してまいりたいと考えております。

以上の理由から、このたび理学療法教育学会理事に立候補いたしました。理学療法教育のさらなる充実と発展のため、何卒ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

役員歴

平成23年～令和5年	埼玉県理学療法士会	臨床実習教育部部長
平成31年～令和3年	日本理学療法教育学会	コアカリキュラム委員会委員
令和4年～令和5年	第12回理学療法教育学会	学術大会 大会長
令和3年～現在に至る	日本理学療法教育学会	コアカリキュラム委員会委員長
令和7年～現在に至る	大阪府生涯学習センター	臨床実習教育部部員